

第8回 志雲会TOKYO 2020.10.15(木) [講師 村田 一]



評伝 渋沢栄一～日本の資本主義 精神から学ぶ～

道徳経済合一説を唱え
合本主義を実践した渋沢栄一、
その生涯を紐解く

渋沢栄一

明治42年（1909年）渡米実業団〔69歳〕



公益財団法人 渋沢栄一記念財団 のウェブサイト より
<https://www.shibusawa.or.jp/index.html>

渋沢栄一 評伝～日本の資本主義精神から学ぶ～

目次

<27歳>一橋家時代 <69歳>引退時

私が 0. 講師自己紹介

1. 渋沢栄一に注目した理由
2. 渋沢栄一の功績
3. 渋沢栄一の前半生
4. 渋沢栄一 of 思想・信念：道徳経済合一説、『論語と算盤』
5. 渋沢栄一 of 経営・事業：合本主義
6. まとめ…もし渋沢栄一がいなかったら
7. 渋沢栄一 前半生 年譜



<参考にした情報や出典>

0. 講師の自己紹介

●自己紹介

- ・東京都板橋区出身、1951年3月生まれ。サラリーマン生活通算46年（継続中）。
 - ・1974年、大学卒業後、ソフトウェア開発会社を経て、1981年、金融サービス会社へ転職。
 - ・1981年～2000年、社内およびグループ会社の情報システムの開発・保守を担当(19年)。
 - ・2000年、監査部門に異動。以後、社内およびグループ会社の内部監査を担当(11年)。
 - ・2011年～2020年、定年退職の後、ソフト開発専門会社に転職し、内部監査を担当(9年)。

主宰者の小浜逸郎さん

- ・2003年～評論家小浜逸郎さんが主宰するカルチャー教室や読書会に参加。
他にいくつかの歴史勉強会に参加。
- ・2018年12月、読書会の元メンバが主宰する勉強会「交観会BUNSO」に参画。
- ・2019年12月、森さん(※)が企画された「志雲会TOKYO」の発足会に参加。



※ 森さんとの出会い：2019年6月 斎藤武夫先生の「日本が好きになる!～

歴史全授業講座 inさいたまSeason3」@大宮で、同じ聴講生としてお会いしました。

1. 私が渋沢栄一に注目した理由 (1/4)

(1) 昨年9月に、渋沢栄一が成し遂げた偉業を改めて知る機会がありました。

⇒ それは、社会福祉事業への取り組みです。

・ 2019年9月4日(水) 放送 NHK BSプレミアム

《英雄たちの選択》という番組 =====⇒

「渋沢栄一 知られざる顔

～“論語と算盤(そろばん)” を読み解く」

・ <番組サイトより>

新1万円札の顔に決まり、注目を集めている渋沢栄一。

明治時代、500もの会社を設立し、「日本資本主義の父」と言われる渋沢のもうひとつの顔を紹介する。

実業家 渋沢栄一のもうひとつの顔は、生涯にわたる福祉事業家として、600もの事業を立ち上げたこと。

「貧しい人を助けることは、日本の資本主義を豊かにするためにも、必要なこと」と主張する渋沢に対し、

「税金で貧民を助けることは『惰民』を増やすだけだ」と、東京府議会は真っ向から攻撃し、論争になった。

鹿鳴館で貴婦人たちによるチャリティーバザーを開くなど、日本の福祉事業への道を切り開いた。



1. 私が渋沢栄一に注目した理由 (2/4)

(2) 話題性

- ① 2019年4月：2024年からの新一万円札の顔となることが公表された。
- ② 2019年9月：2021年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公に決定。
- ③ ①②を受けて 渋沢栄一に関する出版物やY-tube投稿が相次いでいる。

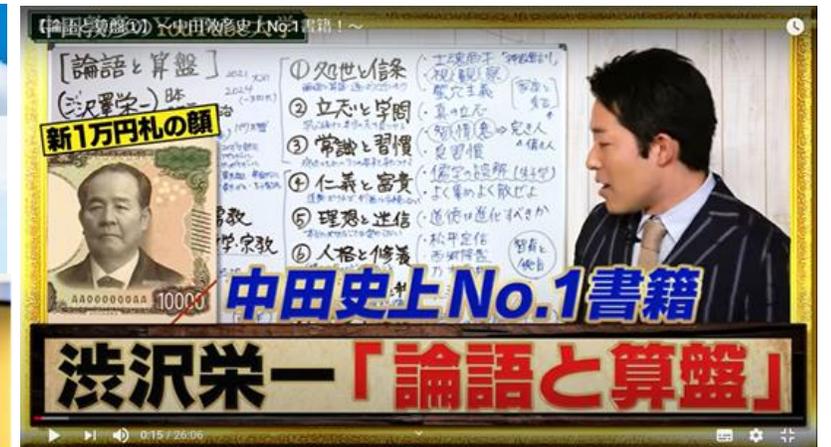
《例》オリエンタルラジオ中田敦彦の「You Tube 大学」で『論語と算盤』を激賞(2019/10/25)

⇒ <https://www.youtube.com/watch?v=5zW7fUvOivs> 1,137,029 回 視聴

↳ [ただし(別テーマですが)、「日韓関係の歴史」については中田の誤解が甚だしい。⇒NG]



2024年度発行予定の一万円札見本



1. 私が渋沢栄一に注目した理由 (3/4)

(3) 注目点 (1/2)

- ① なぜ、渋沢栄一は“日本の資本主義の父”と言われるように、500社に及ぶ事業を起こし発展させることができたのか、また、そうしようと考えたのか。
- ② 1869年(明治2年)、29歳で大蔵省に入省するまでの前半生が、挫折と誤算とその克服の連続であった。〔幕末から明治へと大きく揺れ動いた“激流”の時代〕
 - └アヘン戦争が勃発した年
 - <1> 1840年(天保11年)、武蔵国の豪農の家の長男に生まれる。22歳で江戸遊学。
 - <2> 1863年～64年〔23～24歳〕、尊王攘夷思想に染まり、横浜外国人居留地焼討ちを計画するも断念。京都に逃亡後、一橋家家臣平岡円四郎の誘いで、一橋家・慶喜の家臣となった。⇒この翌年、平岡が水戸藩志士に暗殺されてしまう。
 - <3> 1865年～66年〔25～26歳〕、一橋家の歩兵取立御用掛。慶喜、征夷大將軍に。

1. 私が渋沢栄一に注目した理由 (4/4)

(3) 注目点 (2/2)

② 〔前のスライドの続き〕。

<4> 1867年～68年〔27～28歳〕、パリ万博に幕府使節:徳川 あきたけ 昭武(慶喜の弟)の随員として渡欧(実質約1年半)。そこで西洋の産業革命や近代資本主義の成果を見聞。

キーワード: サン=シモン主義(ナポレオン3世)、合本主義(株式会社)、銀行、鉄道。

〔この渡欧の間に、慶喜が大政奉還し、幕府そのものが崩壊してしまった〕

<5> 1869年〔29歳〕、帰国後、慶喜が蟄居する静岡藩で「商法会所」(銀行と商社を兼ねた会社)を設立し軌道に乗せた。合本主義を実践した。

<6> 1869年12月〔29歳〕、明治政府に大蔵省への出仕を命ぜられ、大蔵大輔(今でいえば財務次官)大隈重信に説得され大蔵省に入省。

⇒ここから八面六臂の活躍を始めた。●そこには、渋沢栄一が目指す強い意志があった。

↳ 4. 渋沢栄一の思想・信念 で 詳しく 述べます

2. 渋沢栄一の功績 (1/5)

「NewsPicks Magazine」 Vol.5 (2019年6月)より

渋沢栄一3つの功績

1

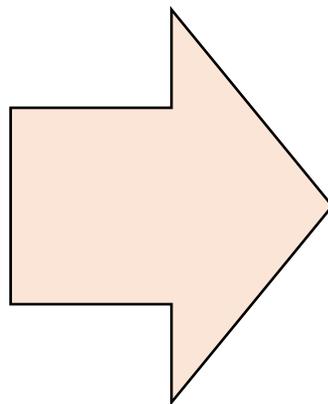
およそ500社の企業の設立に関与。その中には、現在の日本社会のインフラとなる企業も多数ある

2

教育、医療福祉、民間外交など社会活動にも積極的に尽力

3

「士農工商」の名残がある明治初期に実業界の地位向上に貢献。『論語と算盤』をはじめ商業道德の重要性を世に広める



渋沢栄一が設立に携わった企業・団体

企業

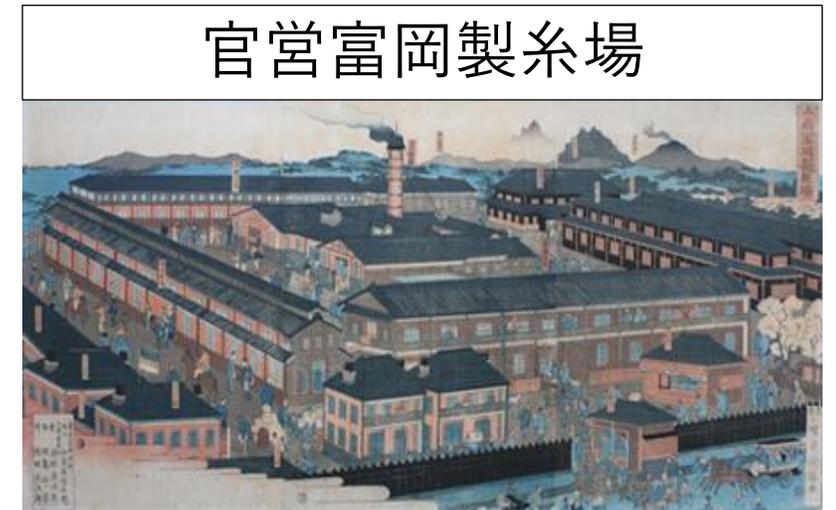
みずほ銀行
王子ホールディングス
東日本旅客鉄道
東京急行電鉄
東京海上日動火災保険
東京電力ホールディングス
東京ガス
日本郵船
帝国ホテル
東宝
澁澤倉庫
IHI

団体

東京商工会議所
日本取引所グループ
全国銀行協会
一橋大学
日本女子大学
東京女学館
津田塾大学
理化学研究所
東京都健康長寿医療センター

2. 渋沢栄一の功績 (2/5) 日本の経済界の基礎を据えた男

- 山本七平 著『渋沢栄一 日本の経営哲学を確立した男』、
星亮一 著『天才 渋沢栄一』、洋泉社MOOK『五代友厚と渋沢栄一』、
渋沢栄一記念財団編『渋沢栄一を知る事典』などより
- 1869年（明治2年）～民部省租税正(そぜいのかみ)として税制の確立
- 1870年（明治3年）～大蔵省改正掛(かいせいがか)掛長として、
 - 度量衡の改正、貨幣金融制度、郵便制度、暦の改正(太陽歴)、鉄道敷設案、 などの新制度を樹立した。
 - 官営富岡製糸場を設置、その後、
生糸が日本の重要な輸出品となる。
 - 廃藩置県と同時に全国統一の紙幣に切り替える処置を成功させた。



2. 渋沢栄一の功績 (3/5) 日本の経済界の基礎を据えた男

- 山本七平 著『渋沢栄一 日本の経営哲学を確立した男』、星亮一 著『天才 渋沢栄一』、洋泉社MOOK『五代友厚と渋沢栄一』、渋沢栄一記念財団編『渋沢栄一を知る事典』などより
- ・ 1873年（明治6年）下野（注：官職を辞めて民間に下る）してからは、
 - ・ 第一国立銀行(現在のみずほ銀行)の設立で近代的な金融制度を確立、（アメリカのナショナルバンクがモデル。BANKを「銀行」と命名。）
 - ・ 共同運輸(現在の日本郵船)の設立で、近代的な海運を確立、〔三菱商会:岩崎弥太郎への対抗措置〕
 - ・ その他約500の新会社を興した。
王子製紙、東京海上火災保険、東京電力、東京ガス、東洋紡績、清水建設、帝国ホテル、麒麟・アサヒ・サッポロビール、帝国劇場
- ・ 日本の伝統社会の上に欧米式の産業組織と近代技術を定着させた名オルガナイザーであった。

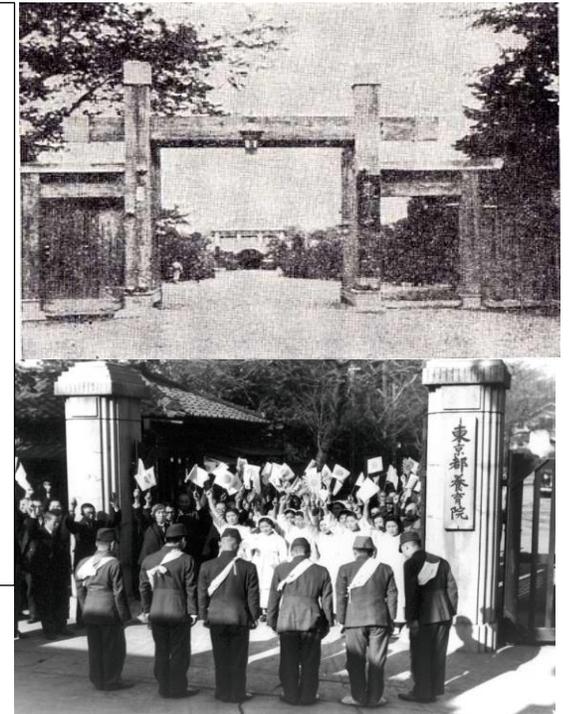
第一国立銀行



2. 渋沢栄一の功績 (4/5) 経済団体も、社会事業も、民間外交も

- 山本七平 著『渋沢栄一 日本の経営哲学を確立した男』、
星亮一 著『天才 渋沢栄一』、洋泉社MOOK『五代友厚と渋沢栄一』、
渋沢栄一記念財団編『渋沢栄一を知る事典』などより 東京証券取引所など
- ・ **経済団体**：東京商工会議所、日本取引所グループ、全国銀行協会など
- ・ 非営利の **社会事業** にも注力：その数約600事業
 - ・ **東京市養育院、日本赤十字社、
結核予防会(北里柴三郎)、盲人福祉協会、
東京慈恵会、聖路加国際病院** 神戸高等商業学校
(出光佐三の出身校)も
などの社会福祉事業や医療事業。
 - ・ **東京高等商業学校(現一橋大学)、日本女子大学、
二松学舎大学、津田塾大学(津田梅子)、東京女学館、
同志社大学、の設立など、教育事業。**

東京市養育院



2. 渋沢栄一の功績 (5/5) 経済団体も、社会事業も、民間外交も

- 山本七平 著『渋沢栄一 日本の経営哲学を確立した男』、星亮一 著『天才 渋沢栄一』、洋泉社MOOK『五代友厚と渋沢栄一』、渋沢栄一記念財団編『渋沢栄一を知る事典』などより

- ・ 晩年は、日米関係を改善するため、4度も訪米するなど、民間外交にも力を注いだ。ノーベル平和賞の候補に2度も選ばれた。

もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら (2009年)

- ・ 「経営の神様」ピーター・ドラッカーの名著『マネジメント』の序文；

“率直に言って私は、経営の『社会的責任』について論じた歴史的人物の中で、かの偉大な明治を築いた偉大な人物の一人である渋沢栄一の右に出るものを知らない。彼は世界のだれよりも早く、経営の本質は『責任』にほかならないということを見抜いていた”

↳ 講師の補足:「企業の公益性」と言い換えてもよいと思います。



3. 渋沢栄一の前半生(1/14)

渋沢栄一の青少年期を大きく6つに分けてみる

- ① 14歳前後まで 読書好きで猛烈に本を読み勉強した少年時代
- ② 17歳～ 農業体験、商売修行、実業実務の学習時代
- ③ 22歳～ 志士気取りで国事に奔走する、壮士時代
- ④ 24歳～ 一橋家に仕官する、貧乏サムライ、サラリーマン時代
- ⑤ 28歳～ パリ万博の徳川昭武遣欧使節団に随行、パリ滞在遊学時代
- ⑥ 29歳～34歳 欧州体験を生かす、静岡藩、明治政府官僚時代

3. 渋沢栄一の前半生(2/14)

渋沢栄一の青少年期を大きく6つに分けてみる

① 14歳前後まで 読書好きで猛烈に本を読み勉強した少年時代 (1/3)

- ・ 武蔵国榛沢郡血洗島村 (はんざわぐん ちあらいじま むら・現埼玉県深谷市) の農商業を営む家に生まれた。
- ・ 6歳頃より教育熱心な父親から学問の手ほどきを受けた。
- ・ 7歳からは従兄弟の漢学者 尾高惇忠 (おだかあつただ) に「四書五経」、漢学、陽明学を学ぶかたわら、家業 (藍作や藍玉製造販売) を手伝い、14歳で単身仕入をするほどになり、商才を発揮した。
- ・ その界限では、実業も学問の撃剣もできる「麒麟児」との評判がたった。



3. 渋沢栄一の前半生(3/14)

① 14歳前後まで読書好きで猛烈に本を読み勉強した少年時代(2/3)

NHK「大河ドラマ」広報サイトより⇒

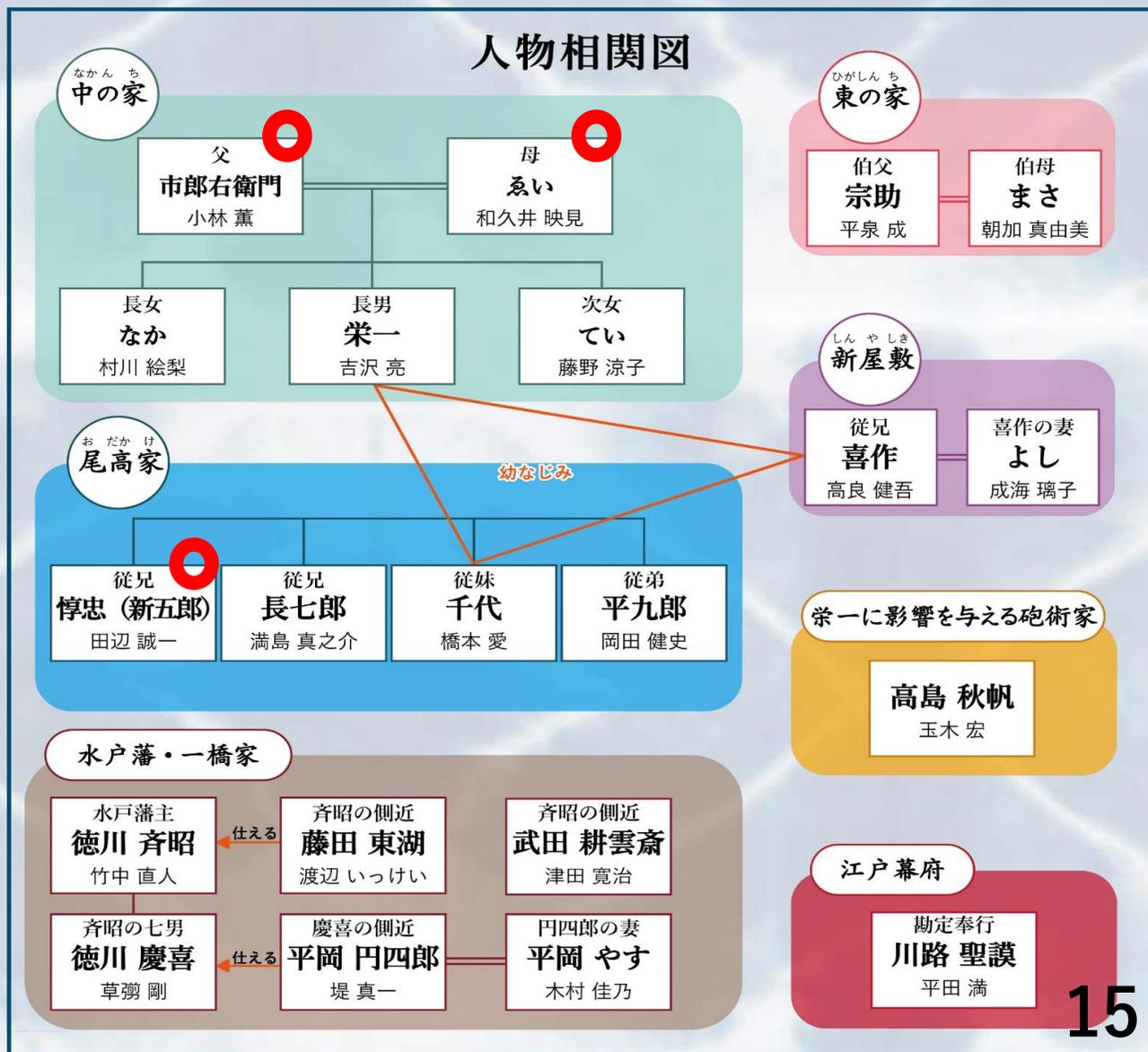
3-1 渋沢栄一の青少年期に影響を与えた人物

父・市郎右衛門

従兄・尾高惇忠

[じゅんちゅう、あつただ]
(新五郎)(藍香[らんこう])

母・ゑい



3. 渋沢栄一の前半生(4/14)

① 14歳前後まで読書好きで猛烈に本を読み勉強した少年時代(3/3)

藍作や藍玉製造販売で年間売り上げ1万両(1両約6万円として約6億円)

◎ 父・市郎右衛門

「中の家」を立て直すため婿養子として入る。骨身を惜しまず働く勤勉家で、家業の研究に余念がなく、藍玉づくりの名手と呼ばれた。四角四面で厳格な父だが、破天荒な栄一の生き方を誰よりも支援した。

◎ 従兄・尾高惇忠[じゅんちゅう、あつただ](新五郎)(藍香[らんこう])

下手計村(しもてばかむら)にある尾高家の長男。従弟である栄一や喜作に学問や剣術を教える。早くから水戸学に傾倒し、栄一らに大きな影響を与えた。明治維新後は富岡製糸場の初代場長となり、栄一を支える。

1830年生まれ。渋沢栄一の10歳年上。自宅に私塾の尾高塾を開き、近郷の子弟たちを集めて漢籍などの学問を教えた。

◎ 母・ゑい

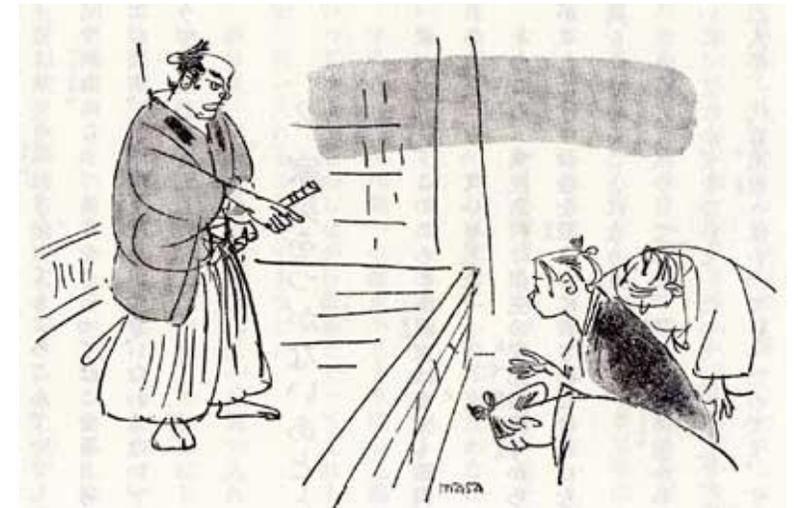
「中の家」冬には羽織を手にして栄一を追いかける姿が「羽織のおゑい」と呼ばれて親しまれるほど、栄一を愛情深く育てた慈愛の母。お人よしで情け深く、「みんながうれしいのが一番」の精神を幼き栄一に教える。

3. 渋沢栄一の前半生(5/14)

渋沢栄一の青少年期を大きく6つに分けてみる

② 17歳～ 農業体験、商売修行、実業実務の学習時代

- ・ 栄一が17歳のとき、中の家は商売も順調で、藍玉作りや養蚕のほかにも雑貨屋や質屋も手がけるようになっていた。このとき、領主の岡部落紀部掇津守は血洗島村へ御用金を命じ、栄一の家でも500両(≒3千万円)を用意しなければならなくなった。
- ・ 栄一は「話を聞いてきなさい」という父の言い付けで、代理として陣屋に向かった。
- ・ 栄一は御用金の用意には即答できない旨を話した。すると、代官はあざ笑うように、「17歳にもなれば遊蕩などもする年だ。500両くらいは貴様の一存で承知できるだろう」と言い放った。押し問答の末、栄一は要求に応じなかった。
- ・ しかし、父は「それが泣く子と地頭には勝てぬ」ということだと言い、翌日に陣屋に行ってあっさり500両を渡してきた。
- ・ 栄一は憤慨した。「陣屋の役人の態度はなんだ。いかに身分が違うとはいえ、われわれが頼まれ側なのに、叱しりつけ、嘲弄するなどけしからん態度だ」「元来、人間は賢愚の差別によって、尊卑の差別も生じるはずだ」。
- ・ 17歳のときのこの事件が、その後の生き方を左右することになる。
⇒「虐げられる百姓のままでは終われない。武士になる！」⇒『官尊民卑の打破』である。



3. 渋沢栄一の前半生(6/14)

渋沢栄一の青少年期を大きく6つに分けてみる

③ 22歳～ 志士気取りで国事に奔走する、壮士時代 <1/2>

- ・ 22歳になった栄一は「このまま農民をしているわけにはいかない」と、江戸への遊学を父親に申し出る。
- ・ 江戸に出た栄一は、海保漁村の私塾である海保塾に学び、塾長を務める一方、千葉周作の三男・道三郎の道場で剣の修行にも励む。
- ・ 江戸の尊王攘夷派の浪士たちとも交際する中で、高崎城を攻め落とし、横浜の異人館を焼き打ちするという驚くべき計画を立てるようになった。
- ・ 決起する仲間は69人とわずかなものだったが、「天下が乱れる時は、農民だからといって知らぬ顔はできません」、その覚悟は「死ねば本望」であった。
- ・ 覚悟を決め、親族に累が及ばぬように父親より勘当を受けた栄一だったが、1863年、京都から尊王攘夷派の公家7人が長州へと七卿落ちするなど勤王派が衰微するのを見て計画を断念。

暴挙計画



江戸から帰った栄一は、夜になると若ものたちと討幕(幕府をたおすこと)の計画に明け暮れました。しかし、この無茶な計画は、いとこの尾高長七郎に止められてしまいました。

3. 渋沢栄一の前半生(7/14)

渋沢栄一の青少年期を大きく6つに分けてみる

③ 22歳～ 志士気取りで国事に奔走する、壮士時代 <2/2>

- ・ 治安維持を担う関八州取締役が計画を聞きつけたとの話が耳に入った。栄一は捕縛を逃れるため、従兄の喜作とともに伊勢参りに行くと言って故郷を後にした。
- ・ 栄一らはかねてから交流があった一橋家用人の平岡円四郎〔※〕の計らいもあり、同家の人間として動き、無事、京都に落ち延びた。
- ・ その後、平岡から呼び出しがあり、「幕府から一橋家に栄一らの身分について照会状が届た」というものだった。平岡が言うには、二人が助かるには「志を変えて一橋家の家来になるしかない」。正式に家来にならないければ幕府に捕まることになり、進退はきわまった。信条を曲げ、家来になる苦渋の決断を下した。
- ・ 一橋家の人間となったことで再び栄一の運命が変わっていく。しかも、この後、日本の近代化に大きな影響を与える活躍をすることになる。

〔※平岡円四郎〕 幕末の文政5年/1822年、旗本・岡本忠次郎の子として生まれた。その後、旗本・平岡文次郎の養子となり、一橋慶喜の側近として活躍した。幼いころから聡明で、その才能を藤田東湖や川路聖謨(としあきら)に認められ、水戸の徳川慶喜が一橋家に入った際に、一橋家の小姓として推薦された。文久3年/1863年、一橋慶喜が上京すると、公武合体派諸侯の中心になった。しかし、反対派に恨まれ、水戸藩の攘夷派に京都で暗殺された。享年43。

3. 渋沢栄一の前半生(8/14)

渋沢栄一の青少年期を大きく6つに分けてみる

④ 24歳～ 一橋家に仕官する、貧乏サムライ、サラリーマン時代

- ・御用談所下役に取り立てられた栄一は、そこで一橋家の外交・周施・探索活動を担当した。この部署は慶喜の政治活動を陰で支える中核となる部署。西郷隆盛、近藤勇と知己となる。
- ・次には、一橋家に有為の士の確保に奔走する。関東・播州他の一橋家の領民から短期間に600名ばかりの兵を集めることに成功する。
- ・さらには、藩の財政の強化に乗り出す。藩の米を直接酒造家に販売、藩の特産品の増産の奨励。その働きの結果、財政改革を果たし、勘定組頭に任命される。
- ・ここで渋沢は、次なる自分の行く道を見つける。即ち、他の武士にはできない自分ならではの領域を見いだした。それは農村に人材発掘に行ったり、一橋家の収入を増やすために商品作物を開発したりという、自分の元々の経験を活かせるような仕事だった。
- ・その才能を認められて1867年正月、後の水戸藩主・徳川昭武（15代将軍・徳川慶喜の実弟）の欧州使節団の随行員に抜擢される。

3. 渋沢栄一の前半生(9/14)

渋沢栄一の青少年期を大きく6つに分けてみる

⑤ 28歳～パリ万博の徳川昭武遣欧使節団に随行、パリ滞在遊学時代(1/3)

- ・ 渡欧の主たる目的はパリで開かれる万国博覧会に昭武が将軍の名代として出席することだった。
- ・ 渋沢にとって約1年半に及んだヨーロッパでの経験は驚きの連続であると同時に学ぶべきことの多いものとなった。
- ・ 渋沢は経理担当として任された仕事をしっかりとこなす一方で、「フランス語の稽古をしたい」と申し出ている。言葉が通じなければ、どんな文明国で暮らそうが、何の得るところもなく帰国することになる。
- ・ 「自分は人生の岐路に立っている」と感じた渋沢はフランスで新知識を身に付け、日本に帰国したのちに衆目を驚かす働きをしたいと考えた。



徳川昭武一行集合写真。マルセイユにて。後列一番左が渋沢栄一。中央で椅子に座っているのが、徳川慶喜の弟・徳川昭武（当時14歳）

3. 渋沢栄一の前半生(10/14)

渋沢栄一の青少年期を大きく6つに分けてみる

⑤ 28歳～パリ万博の徳川昭武遣欧使節団に随行、パリ滞在遊学時代(2/3)

・その間、銀行家フリュリ・エラールと出会った渋沢は、資本主義の仕組みや銀行の仕組み、さらには証券取引所や株式、公債などの知識を貪欲に求めた。また、鉄道や電信の敷設の必要性など多くのことを学んでいる。⇒ サン=シモン主義 と ナポレオン3世 [次のスライド]

・さらにヨーロッパ各国の訪問を通じて事業が非常に発展しているのは、合本（株式）組織で資金を広く社会から募っているからだということも学んだほか、「士農工商」という身分制度のある日本と違って官民の平等主義こそが国家の繁栄につながることも理解したことで、渋沢は徐々に自分の目指す社会が見え始めるようになる。

・パリの下水道



ナポレオン三世からパリ博覧会に招待された慶喜（15代将軍）の弟昭武のお供で、栄一はヨーロッパに行きました。一緒に行った侍たちが外国の生活になれない中で、栄一はヨーロッパの進んだ文明を次から次へと見学して、日本のために役立てました。

・パリを視察する栄一



栄一はフランスで髪を切り、洋服を着て、フランス語を覚え、進んだヨーロッパの文化を積極的に取り入れようと努力しました。徳川昭武の信頼も厚く、様々な視察のお供に栄一を連れて行きました。このときの経験が、日本に帰ってからの栄一の活躍にとっても役立ちました。

3. 渋沢栄一の前半生(11/14)

渋沢栄一の青少年期を大きく6つに分けてみる

⑤28歳～パリ万博の徳川昭武遣欧使節団に随行、パリ滞在遊学時代(3/3)

サン＝シモン主義：

- ・ 平等な社会を築くことを目的としているが、共産主義とは異なる。今ある小さなパイを平等に切るのではなく、パイ自体を大きくしつつ平等に分ける工夫をすることが大事という主張。
- ・ 重要な概念は流通。お金が事業を志す人に回ることによって富が生まれる。流通には、次のものが必要。まずお金を集めて事業家に貸す銀行。次に株式会社という制度。そしてヒトとモノを動かす鉄道、海運。
- ・ さらにイギリスにあってフランスになかった「競争精神」。これを育成するため、万国博覧会を開催して出展品を金銀銅メダルで評価。



サン＝シモン伯爵(1760年～1825年) 社会主義思想家

ナポレオン3世：獄中でサン＝シモンの著作を読んで共鳴

- ・ 後に大統領になり皇帝になると、サン＝シモンの弟子たちを全面的に登用した。
- ・ 銀行家に銀行業を許可し、鉄道、海運、株式会社などを次々と実現し制度化していった。皇帝になった1852年からわずか15年間で、イギリスをしのぐ世界最高の資本主義国を出現させた。



ルイ＝ナポレオン
ナポレオンの甥。
1848年に大統領、
1852年に皇帝ナポ
レオン3世となる。
普仏戦争(1870-71
年)に敗れ退位した。

3. 渋沢栄一の前半生(12/14)

渋沢栄一の青少年期を大きく6つに分けてみる

⑥ 29歳～34歳 欧州体験を生かす、静岡藩、明治政府官僚時代 (1/3)

- ・ フランスから帰国した渋沢栄一は、しばし静岡藩に身を置くことに。「商法会所」と呼ばれる政府の地方機関運営に従事することとなった。当時日本にまだ定着していなかった、半官半民の会社のような組織。
- ・ この商法会所は政府の肝いりによって全国に作られたが、寄り合い所帯でビジネスのわからない旧武士層と地元の商人が運営してほぼすべて失敗した。
- ・ 自分が血洗島で取り組んだ染料の商い、一橋家での商品作物栽培の奨励、ヨーロッパで見聞した近代ビジネスの実態、それらの経験を踏まえて静岡の地で近代ビジネスのプロトタイプの実験を成功させることができた。さらに、勸業に応じる旧幕臣に対して製茶や養蚕をはじめとする起業資金の貸し付けも行い成果を上げていった。
- ・ この経験によって、いったん自分の人生がご破算になったかと思われたところから、日本という国を近代化するために自分の腕は十分役に立つことを実感でき、再出発するステージを刻むことができたのではないか。



明治元年、フランスから帰国後、すぐに静岡へ行った渋沢栄一

3. 渋沢栄一の前半生(13/14)

渋沢栄一の青少年期を大きく6つに分けてみる

⑥ 29歳～34歳 欧州体験を生かす、静岡藩、明治政府官僚時代 (2/3)

- ・フランスから帰国後に静岡藩で仕事をしていた渋沢に、あっという間に新政府から出仕せよとの命令が来る。〔新政府には人材が枯渇していた〕

島津斉彬〔薩摩藩〕、松平春嶽〔福井藩〕、山内容堂〔土佐藩〕、伊達宗城(むねなり)〔宇和島藩〕 <新政府では民部卿兼大蔵卿>

- ・渋沢は複雑な思いも語っているが、前宇和島藩主で幕末の四賢候の一人、伊達宗城と大隈重信の引きによると言われていて、無理筋ではないように感じられる。渋沢の活動が正当に評価されて本人も純粹にうれしかったのではないか。
- ・出仕した大蔵省でヨーロッパでの見聞を生かして猛烈に働き、どんどん出世していく。彼ほどの実績と広い見聞を持った人は他にいないので当然と言えば当然。しかし、あっという間に政府内の権力闘争に巻き込まれていく。
- ・政治とは権力闘争であり、合理性や論理性だけでは物事が決まらないことに翻弄され、明治新政府に失望する。〔内務卿：大久保利通との対立など〕

3. 渋沢栄一の前半生(14/14)

渋沢栄一の青少年期を大きく6つに分けてみる

⑥ 29歳～34歳 欧州体験を生かす、静岡藩、明治政府官僚時代 (3/3)

- ・ただし、ないないづくしの新政府が目的に向かって無理を承知で政策を立案し、遂行していくというゼロから立ち上げる巨大プロジェクトを経験することができた。
- ・その最たるものが不換紙幣の整理と国立銀行創設と兌換紙幣発行という、財政基盤整備のための幣制改革だった。
- ・新政府そのものに兌換紙幣を発行できる財源が無いため、民間資金を活用して銀行を作り、その元手で兌換紙幣を発行するわけである。英米の制度を勉強して作り上げていくわけだが、その過程で、経済とは実物だけで動くのではなく、人々が用意した仕組みが信用できるものならば将来への期待によって実態以上の新たな価値を創造することができることを学んだ。
- ・信用できる仕組みのためには、参加する民間も単独=独占体ではなく、合本=連合体にすることによって公共性が高くなって信用力が増すと考えたのだった。結果的に渋沢は、政府の力はたかが知れていて、本当に強い国にするには民間の産業力をつけないといけないことを思い知ったのだった。

4. 渋沢栄一 の思想・信念：道徳経済合一説、『論語と算盤』(1/3)

① 渋沢は、事業理念の範を、資本家とは一見不釣り合いにみえる『論語』に求め、「事業と道徳の一致」（「論語と算盤」）を唱えた。そして、「士農工商」の最下位に置かれてきた商人を、国家を裕福にする実業家と位置づけ、事業が正業であるならば公益と私益とは一致すると主張し、かつこれを実践した。

〔① DIAMONDハーバード・ビジネス・レビュー 2012.08.22 郷土の偉人研究会〕

② 当時の日本では「商人」はまだ卑しいものと考えられていた。それだけに、いずれは大蔵省の長官にも大臣にもなれるかという渋沢氏の退職を「大きな過ち」と非難する友人たちもいた。

そんな彼らに対して渋沢氏が引き合いに出したのが「論語」だった。渋沢氏は「私は『論語』で一生を貫いてみせる」（『論語と算盤』 p23）として自らの生きる道を貫こうとした。

そこにあったのは「わずかに利益を上げながら、社会で生きていくためには志を持つ」ことが必要であり、そのためには「己を修めて、人と交わるための日常の教えが説いてある」論語が最も相応しいという考え方だった。

〔② "ビジネス+IT"というネットサイトの連載記事「企業立志伝」2019.05.07 By 桑原晃弥さん〕

4. 渋沢栄一 の思想・信念：道徳経済合一説、『論語と算盤』(2/3)

③ 渋沢は、私人となって全国に商業を興すため、商人たちに商業道徳を植え付けることに力を注いだ。自ら模範を示すために第一国立銀行を設立し、多くの株式会社をつくった。銀行券、株券を発行するための洋紙が必要になり王子製紙を創業し、日本の産業を農業から工業へシフトさせるために大阪紡績(現東洋紡)などもつくった。

④ 倫理観を持った資本家・経済人を育てるために、現在の商工会議所である商法会議所、投機を重んじて証券取引所の前身となる米の取引所、商業人を育てるための東京商科大学(現一橋大学)を創設。

⑤ 渋沢は倫理観の基をどこに求めたのだろうか。それは、父にたたき込まれた論語だった。論語を商業人である自分とどう関係づけたのだろうか。ヒントはフランス滞在時代にあった。昭武の指導係としてビレット大佐という軍人が付いていたが、彼はフリュリ・エラル(銀行家)を同格の人間として扱っていた。二人はいわば、武士と商人という立場である。

4. 渋沢栄一 の思想・信念：道徳経済合一説、『論語と算盤』(3/3)

⑥論語には、本当に武士が上、商人が下と書いてあるのか疑問を持った。そこで渋沢は二松学舎大学をつくった三島中洲先生に付いて、論語を学び直した。すると論語も適正な利潤を認めていることが分かり『論語と算盤』を書き上げたのだった。

〔晩年76歳の1916年(大正5年)に発刊〕

自分の利益と全体の利益の関係をしっかり理解することが大事で、長くもうけようと思うのなら、一度の大もうけを狙うなと結論付けた。

⑦彼の視点は正しく、たとえ世界中にむき出しの資本主義が広がったとしても、最終的に勝利するのは、渋沢の『論語と算盤』という日本的資本主義だと思う。



〔⑥⑦ 日本商工会議所での講演 By 鹿島茂(フランス文学者)さん 2018.3.15〕

5. 渋沢栄一の経営・事業：合本主義(1/2)

・ 渋沢は、信用創造でお金を作りだしてもそれを商品相場のような投機に回したのでは何の意味もなく、産業振興への道筋をつけて創造された価値を実体価値に転じないといけない、と考えた。

さらには欧米で大規模に生み出されるさまざまな機械生産による安価な商品に対抗できないといけ
ない。

大資本がいるので、株式会社制度を普及させ、華族の大資本から地域の大地主や商人のお金、すべてを
糾合し、同時に起業意欲の高い、多少のリスクを恐れない新しいタイプの経営者も育成しなければ
ならなかった。 ～中略～

・ 渋沢の役割は日本に近代ビジネスを普及させることがいかに大事かを説き続け、投資家として
経営者として一定程度のリスクを背負う人材を育成し、参加させることだった。

と同時に、立ち上がったビジネスの経営者たちをこまめにウォッチして挽回不能になる前に危険
を察知し、適切な処置を施す事を続けたのだった。

〔幻冬舎の雑誌「GOERTE」のWeb版「情熱パーソン」渋沢栄一〔2019.06.26～2019.06.30〕 By 島田昌和さん〕

5. 渋沢栄一の経営・事業：合本主義(2/2)

・大蔵省を退職した渋沢氏が最初に手掛けたのが「第一国立銀行」(第一勧業銀行などを経て、現在はみずほ銀行) の設立であった。

以後、渋沢氏はいくつもの地方銀行の設立に尽力している。お金は豪商豪農の倉の中などに隠れているうちは人の役に立ち、国を富ませる働きとはならないが、銀行を立て、上手に道を開くとたくさんのお金が集まる。

「そのおかげで貿易も繁盛するし、産物も増えるし、工業も発達するし、学問も進歩するし、道路も改良されるし、すべての国の状態が生まれ変わったようになる」

(「論語と算盤」p232)

岩崎弥太郎と対立

〔"ビジネス+IT"というネットサイトの連載記事「企業立志伝」2019.05.07

By 桑原晃弥さん〕



岩崎弥太郎は三菱財閥をつくった人です。ある日、栄一は岩崎弥太郎に招待されました。そして、二人で組んで事業を行なおうと相談を持ちかけられました。しかし、栄一は国民みんなが豊かになることを目指していたので、それを断りました。

6. まとめ…もし渋沢栄一がいなかったら (1/4)

- ① 鹿島茂さん 記念講演録「サン・シモン主義と渋沢栄一」
(明治大学 国際日本学部 設立)〔2009年3月〕 より

日本が今日のような豊かな国になり得たのは、ぼくは、もしかすると渋沢栄一がいてくれたおかげではないかと考えるようになっていっています。

我々は、資本主義というものは、自然に放っておけばそうなるものだと思っているけれども、じつは違うんですね。そのことが一番よくわかるのは旧共産主義諸国です。ソ連をはじめとした共産圏諸国が崩壊し、そして資本主義へ移行しようとしたときに、渋沢栄一に相当するような人がいなかったために、ブラックマーケット（闇市）的な社会になってしまったんですね。

6. まとめ…もし渋沢栄一がいなかったら (2/4)

① 鹿島茂さん 記念講演録「サン・シモン主義と渋沢栄一」(明治大学 国際日本学部 設立)より

一部の 権力や特権を握った人たちが好きなように物資を独り占めにし、大儲けする。99%の弱者を1%の強者が支配するという、そういう社会が生まれてしまった。旧共産圏の国々は今日に至るまで そうしたブラックマーケット的なシステムをなかなか補正することができないんです。

それに比較すると日本の近代というものは非常にスムーズに前資本主義社会から資本主義社会に移行できたといえます。それは、どうやら、渋沢栄一という人がいて、自分は経済をやる、経済に一定の倫理観を導入しない限り、商人は永遠に蔑まれるだけだから、自分が使命をもって、その世界に飛び込むほかないと考えて、1人で資本主義のシステムを築いたからではないかと思えるのです。

6. まとめ…もし渋沢栄一がいなかったら (3/4)

② 井沢元彦さん 夕刊フジ連載「お金」の日本史No.107

もし日本に渋沢がいなかったら？ [20.6.11] より

「武士道は、ただに儒者とか武士とか言う側の人々においてのみ行われるものではなく、文明国における商工業者の、よりてもって立つべき道にも、ここに存在することと考える。

かの泰西（ヨーロッパ）の商工業者が、互いに個人間の約束を尊重し、たとえ、その間に損益はあるとしても一度約束した以上は必ずこれを履行して前約に背反せぬということは、徳義心の強固なる正義廉直の観念の発動に外ならぬのである」
（『論語と算盤』 渋沢栄一著 角川ソフィア文庫）

泰西（ヨーロッパ）の商工業者は必ず契約を守るが、日本の商人は必ずしもそうではないということなのである。契約を守ることは近代資本主義社会の最低成立条件でもある、渋沢はまさに「そこから」始めなければならなかった。



いざわもとひこ 1954年、愛知県生まれ。早稲田大学法学部卒。
TBS報道局入社、80年、『猿丸幻視行』で第26回江戸川乱歩賞受賞。
独自の歴史顛からの作品が人気、夕刊フジの好評連載単行本化
『天皇の日本史』（KADOKAWA）
『コミック版 逆説の日本史』

6. まとめ…もし渋沢栄一がいなかったら (4/4)

② 井沢元彦さん 夕刊フジ連載 「お金」の日本史No.107

もし日本に渋沢がいなかったら？ [20.6.11] より

「商売は悪」の社会では商人はギャングと同じで、約束を守らなくても暴利をむさぼってもいい。非難はされるにしても、道徳に従えとは誰も言わない。道徳を守らないのが悪人だからだ。しかし渋沢は儒教にことよせて近代資本主義の道徳を確立した。企業がその利益を社会に還元すべきだという考え方も、一部の良心的な商人にはあったが、商工業界全体の倫理ではなかった。全体をそのように変えたのは他ならぬ渋沢である。

では渋沢がいなかったら、日本はどうなっていたか？ 格好の例がある。

「渋沢なき資本主義」で一度は近代国家をつくった中国だ。孫文が清朝を倒した辛亥革命（1910年）である。

しかし、この「ブルジョア革命」はうまくいかなかった。倫理なき弱肉強食の資本主義が横行し国民党は腐敗墮落し、「資本主義打倒」をスローガンにした共産党にとってかわられた。そして今、中国共産党は資本主義を「採用」したが、相変わらず「渋沢栄一」はいない。「倫理なき資本主義」が今後どうなるか、現代世界の不安定要因の一つであろう。お分かりだろう、日本史に渋沢栄一が存在したこと自体一つの奇跡なのだ。

7. 渋沢栄一 前半生 年譜 [渋沢栄一記念財団ホームページより] (1/2)

	和暦	歳	主なできごと	日本と世界の動き
1840	天保11年	0	2月13日、現在の埼玉県深谷市血洗島に生まれる。	アヘン戦争勃発
1847	弘化4年	7	従兄尾高惇忠から漢籍を学ぶ。	
1854	安政1年	14	家業の畑作、養蚕、藍問屋業に精励。	前年(1853) 黒船来航
1858	安政5年	18	従妹ちよ(尾高惇忠の妹)と結婚。	日米修好通商条約、 安政の大獄
1863	文久3年	23	高崎城乗っ取り、横浜焼き討ちを企てるが、計画を中止し京都に出奔。	井伊大老暗殺 (1860)
1864	元治1年	24	一橋慶喜に仕える。	外国艦隊下関を砲撃
1865	慶応1年	25	一橋家歩兵取立御用掛を命ぜられ領内を巡歴。	
1866	慶応2年	26	徳川慶喜、征夷大將軍となり、栄一は幕臣となる。	長州征伐、薩長同盟
1867	慶応3年	27	徳川昭武に従ってフランスへ出立(パリ万博使節団)。	大政奉還、王政復古
1868	明治1年	28	明治維新によりフランスより帰国、静岡で慶喜に面会。	戊辰戦争 (1868~1869)

7. 渋沢栄一 前半生 年譜 [渋沢栄一記念財団ホームページより] (2/2)

西暦	和暦	歳	主なできごと	日本と世界の動き
1869	明治2年	29	静岡藩に「商法会所」設立。 明治政府に仕え、民部省租税正となる。 民部省改正掛掛長を兼ねる。	東京遷都 東京・横浜間、電信開通
1870	明治3年	30	官営富岡製糸場設置主任となる。	平民に苗字使用許可
1871	明治4年	31	紙幣頭となる。『立会略則』発刊。	廃藩置県
1872	明治5年	32	大蔵少輔事務取扱。抄紙会社設立出願。	新橋・横浜間鉄道開通
1873	明治6年	33	大蔵省を辞める。第一国立銀行開業・総監役。 抄紙会社創立(後に王子製紙会社・取締役会長)。	国立銀行条例発布 地租改正条例布告
1874	明治7年	34	東京府知事より共有金取締を囑託される。	
1875	明治8年	35	第一国立銀行頭取。 商法講習所創立。	
1876	明治9年	36	東京会議所会頭。東京府養育院事務長(後に院長)。	私立三井銀行開業
1877	明治10年	37	摂善会創立(後に東京銀行集会所・会長)。 王子西ヶ原に別荘を建てはじめる。	西南戦争
1878	明治11年	38	東京商法会議所創立・会頭(後に東京商業会議所・会頭)	

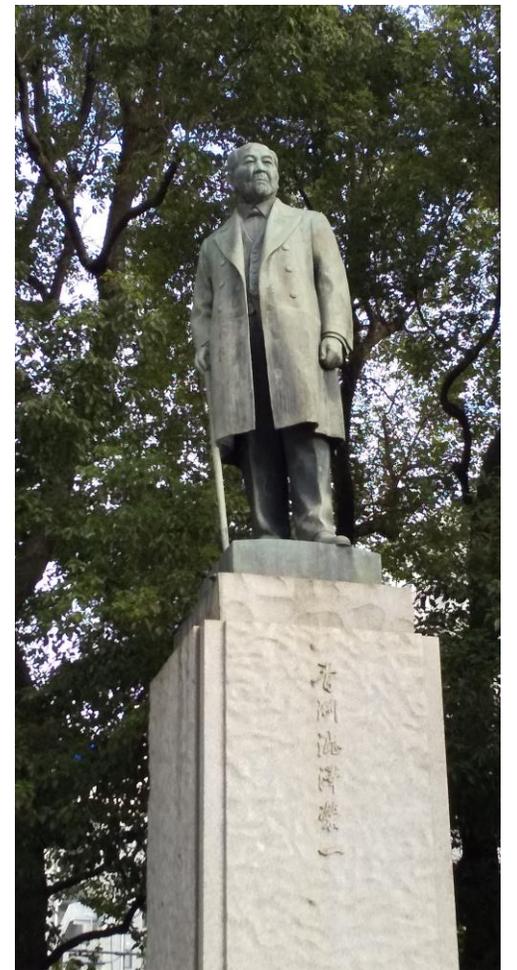
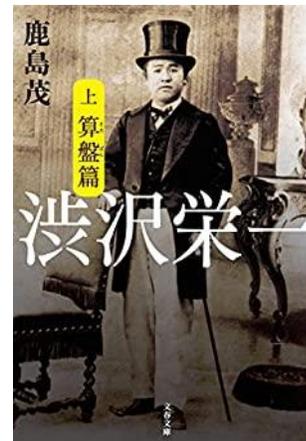
< 参考にした情報や出典 >

(1) ネットサイト

- ① 公益財団法人 渋沢栄一記念財団
- ② 深谷市 渋沢栄一デジタルミュージアム
“油絵でみる渋沢栄一の生涯” など
- ③ “渋沢栄一ものがたり” 北山敏和の鉄道いまむかし」サイト
<http://ktymskz.my.cocacn.jp/denki4/sibusawa.htm#0>

(2) 書籍

- ① 鹿島茂 『渋沢栄一』上・下
- ② 泉三郎 『青年・渋沢栄一の欧州体験』
- ③ 島田昌和
『渋沢栄一 社会起業家の先駆者』



日本橋・常盤橋公園
に立つ 渋沢栄一像